

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月4日(木)

### 《一人ひとりの宣教》

今日の福音(マルコ 6:7-13)は、話すことがたくさんあるのですが、一つだけ考えてみたいと思います。

イエス様はなぜ、12人の使徒を二人ずつ組にして遣わされたのでしょうか。そこには二つの理由があると思います。

一つは、ご自分の未来のこと、いつかこの世を去らなければならないことを考えたのだと思います。そして、その時に弟子たちが上手く生きられるように、“練習をさせる”“体験をさせる”という気持ちで遣わされたのでしょうか。

もう一つの理由は、私の個人的な考えです。12人の弟子たちは、イエス様について行きながら素晴らしいことばかり見てきました。そのために、自分でも気づかないうちに、イエス様に依存的になっていたのではないかと思います。“イエス様に任せていれば何でもして下さる”という依存する心になっていたのでしょうか。そしてそのことをイエス様は感じられたのだと思います。

そういう意味で、イエス様と一緒に宣教活動をしている間に、わざわざ弟子たちを二人ずつ組にして遣わされたのではないかと推測しました。

私たちには、洗礼を受けた途端に一つの義務がついてきます。それは「自分がいただいた恵み、嬉しい便り、いわゆる福音を述べ伝えなければならない」という義務です。しかし、一人一人を考えてみるとどうでしょうか。ここにたぶん20人くらいの方がいらっしゃると思うのですが、ご自分の手で教会を紹介することで、信仰の生活に入った人が何人くらいいらっしゃるのでしょうか。考えてみるとあまり嬉しくない気持ちになると思います。これは逃げられない宿題です。そして、いつか必ず「お前は私のためにどのくらい努力したのか。」と聞かれます。その時、「毎日信仰の生活、愛の分かち合い、奉仕の生活をしてきました。」と答えれば、「では、あなたによって私のことを知った人は何人いるのか。」と聞かれます。その答えは、皆様が準備しなければなりません。私たちの信仰は、自分のことばかり考えながら救いを求める信仰ではありません。自分が感じた喜びは必ず伝えなければなりません。そして神様の御国をこの世の中で準備しなければなりません。

総会で公に発表すると思いますが、私の今年の司牧の方針の中で、一番重要なことは『宣教』です。ですから、少なくとも一人が一人を宣教する運動を皆様にお願ひしようと思っています。これができるかどうかは、神様の力だと私は思います。昨年も「頑張って、各自が一人くらい何とか実を結びましょう。」と申しあげたのですが、あまり返事がなかった気がします。今年は必ずそのようにします。そして、そのために勉強会も開くつもりです。マリア様を各家へ回す祈りの会も考えています。一つの宣教のために、イエス様のお母様をいろいろな信者の家庭に回すつもりです。きちんと準備ができ

たら、いろいろな計画を皆様に発表したいと思います。

さあ皆様、今日のこの福音は、ただ通り過ぎてしまう御言葉ではなく、少し深刻に意識していただきたくものです。そして、私によって一人の霊魂が救われるかもしれない、という強い意識を持っていただきたいと思います。

ありがとうございました。